

SQL Server 2014

ライセンス データシート

製品の概要

SQL Server 2014 は、インメモリ機能の搭載によりすべてのワークロードにおいてミッション クリティカルなパフォーマンスを発揮するだけでなく、使い慣れたツールを使用してあらゆるデータを基に迅速な分析を行うことができます。さらに、組織が自社運用とクラウドの両方でソリューションを容易に構築、展開、管理できるハイブリッドなクラウド対応プラットフォームを提供します。

エディションの概要

SQL Server 2014 では、お客様がアプリケーションおよびソリューションを展開する方法に応じて以下のエディションが用意されています。

- **Enterprise:** ミッション クリティカル アプリケーションおよび大規模なデータ ウェアハウスに適しています。
- **Business Intelligence:** 企業向けのプレミアムなセルフサービス BI を提供します。
- **Standard:** 基本的なデータベース機能、レポート機能、および分析機能を提供します。

この 3 つの主要エディションは一貫性のある階層型のモデルで提供され、エディションの機能およびライセンス全体で一貫性が向上しています。Enterprise エディションには、SQL Server 2014 で提供されるすべての製品機能が含まれ、Business Intelligence (BI) エディションには Standard エディションのデータベース機能に加え、プレミアムな BI 機能が含まれています。

注: SQL Server 2014 については、Developer Edition および Express Edition もご利用いただけます。Web Edition は、SPLA (Services Provider License Agreement) プログラムでのみ提供されます。

SQL Server 2014 のライセンス モデル

SQL Server 2014 では、お客様のワークロードに合わせて、さまざまなライセンス オプションを利用することができます。SQL Server には、主に以下の 2 つのライセンスモデルが適用されます。

サーバー + CAL: ユーザーまたはデバイスについてライセ

ンスを取得し、SQL Server の追加を低コストで行うことができます。

- SQL Server ソフトウェアを実行するサーバーごとに、サーバー ライセンスが 1 つ必要です。
- ライセンスを取得した SQL Server にアクセスするユーザーまたはデバイスごとに、同じバージョンまたはそれ以降のバージョンの SQL Server CAL が 1 つ必要です。たとえば、SQL Server 2012 Standard Edition サーバーにアクセスするには、ユーザーは 1 つの SQL Server 2012 または 2014 CAL を必要とします。
- SQL Server 2014 CAL により、Business Intelligence エディション、Standard エディション、および従来の Enterprise エディション サーバーを含む、複数の SQL Server にアクセスすることができます。

コア ライセンス: お客様は、自社運用の物理サーバー、仮想あるいはクラウドなど、ソリューションが展開されている環境に関係なく、処理能力をより正確に測定し、より一貫したライセンスの指標を利用することができます。

- コア ベースのライセンスは、お客様がユーザー/デバイス数をカウントすることが難しい、インターネット/エクストラネット ワークロードまたは外部向けワークロードと統合するシステムをお持ちの場合に適しています。
- 物理サーバーのライセンスを取得するには、お客様はサーバー内のすべてのコアについてライセンスを取得する必要があります。必要なライセンスの数を判断するには、物理コアの総数に、コア係数表に規定する適切なコ

ライセンス データシート

ア係数を乗じます。サーバー上の物理プロセッサごとに、コア ライセンスが少なくとも 4 つ必要です。

ライセンス モデルごとに、以下の SQL Server 2014 エディションをご利用いただけます。

SQL Server 2014 Edition	ライセンス オプション	
	サーバー + CAL	コア ライセンス
Enterprise		•
Business Intelligence	•	
Standard	•	•

注: SQL Server 2014 Developer Edition は、ユーザー毎の開発ツール モデルに基づいてライセンスされます。

Enterprise Edition ユーザー向けの特別な注意事項: SQL Server 2012 のリリースに伴い、Enterprise Edition はサーバー + CAL モデルから削除され、新しいサーバー ライセンスはご利用いただけなくなりました。ただし、有効なソフトウェア アシュアランス (SA) をお持ちのお客様は、引き続き Enterprise エディション サーバーの SA を更新し、SQL Server 2014 ソフトウェアにアップグレードすることができます。注: SQL Server 2014 にアップグレードするお客様については、20 コアの制限がソフトウェアに適用されます。

仮想化のライセンス

SQL Server 2014 では仮想化の権利、オプションおよびメリットが提供されるので、お客様は柔軟に仮想化環境に展開することができます。SQL Server 2014 には主に 2 つの仮想化ライセンス オプションがあり、個別の仮想マシンについてライセンスを取得できるだけでなく、大規模な仮想化環境およびプライベート クラウド環境で最大の仮想化を実現するためのライセンスを取得することができます。

個別の仮想マシン

ハードウェアの機能が向上するにつれ、各データベースがサーバーの処理能力の一部のみを使用することがより一般的になっています。物理サーバーのごく一部しか使用しないデータベースを仮想マシン (VM) 上に展開する場合、個々の VM のライセンスを取得することで、コストを削減することができます。

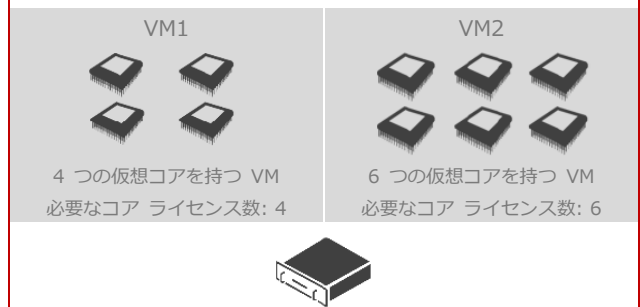
- コア ライセンスによって VM のライセンスを取得するには、VM に割り当てられる仮想コア (仮想スレッド) ごとにコア ライセンスを購入します (VM あたり最低 4 つのコア ライセンス)。
- サーバー ライセンスによって 1 つの VM のライセンス

を取得するには (Business Intelligence または Standard エディションのみ)、サーバー ライセンスを購入し、各ユーザーまたは各デバイスに SQL Server CAL を対応させます。

- 有効な SA 契約を持つライセンスを取得済みの各 VM は、追加の SQL Server ライセンスを購入することなく、サーバー ファーム内で、または第三者のホスティング業者やクラウド サービス プロバイダーに移動することができます。

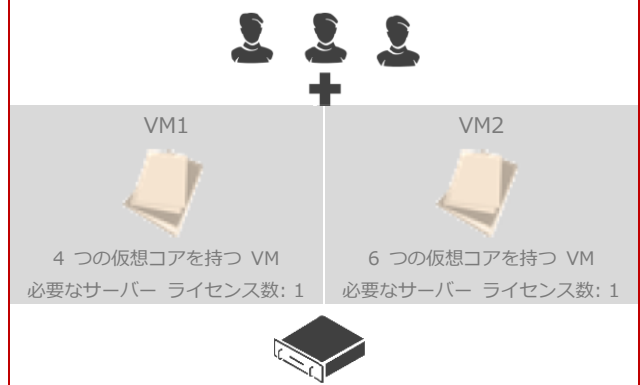
コア ライセンスで VM のライセンスを取得するには

- 各仮想マシンの仮想コアについてライセンスを取得する
- 仮想マシンごとのコア ライセンスの最小要件は 4 つ



サーバー ライセンス + CAL で VM のライセンスを取得するには

- 各 VM についてサーバー ライセンスを取得する
- 各ユーザーまたはデバイスについて CAL を取得する



注: サーバー + CAL モデルに基づいて VM のライセンスを取得する場合、仮想コアの数が必要なサーバー ライセンスの数に影響することはありません。

高密度な仮想化

SQL Server のプライベート クラウドを運用すると、さらなるコスト削減が可能です。これは、物理サーバーの処理能力を最大限活用しながら、仮想リソースのプロビジョニングとプロビジョニング解除をきわめて動的に行いたいと考えているお客様に適したオプションです。

- お客様は、サーバー上の物理コアの総数に基づいてサー

ライセンス データシート

バー (またはサーバー ファーム) について有効な SA 契約を持つ Enterprise エディションのコア ライセンスを取得することで、サーバーに無制限の数の VM を展開し、ライセンスを取得したハードウェアの能力を最大限に利用することができます。

- SA を利用すれば、無制限の数の仮想マシンを実行して、動的なワークロードを処理し、ハードウェアの処理能力を最大限活用することができます。

SQL Server プライベート クラウドのライセンス

- サーバー上のすべての物理コアについて Enterprise エディション コア ライセンスを取得し、SA 契約を行う
- 無制限の数の VM が展開可能

たとえば、物理プロセッサ数 2、物理プロセッサごとのコア数 6 (コアの総数 12) の 1 台のサーバーについてライセンスを取得する場合は、以下のようになります。

購入内容	展開内容
物理コアについて EE+SA を取得	無制限の VM (この例では 6 つ)
SQL Server Enterprise Edition コア ライセンス + SA × 12	VM1
	VM2
	VM3
	VM4
	VM5
	VM6

高可用性のためのライセンス

SQL Server ソフトウェアは、1 つのサーバーに障害が発生しても、別のサーバーがその処理を引き受け、回復し、処理を続行するように構成することができます。SQL Server 2014 以降は、有効な SA 契約を持つアクティブ サーバーごとに、フェールオーバー サポートのために使用するパッシブサーバーを 1 つインストールすることができます。

- フェールオーバー サポートのために使用する 2 台目のパッシブサーバーは、完全にパッシブである限り、別途 SQL Server のライセンスを取得する必要はありません。2 台目のサーバーからクライアントにレポートなどのデータを提供する、またはバックアップなどの作業を

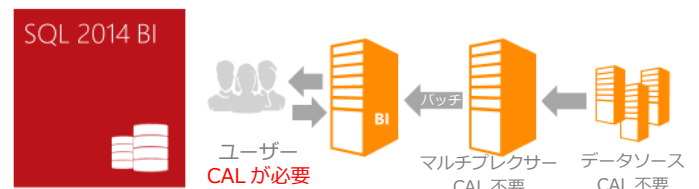
行う場合には、2 台目のサーバーに対して SQL Server のライセンスを取得する必要があります。



- アクティブ サーバーのライセンスは有効な SA 契約を持っている必要があります。このライセンスにより、2 台目のパッシブ SQL Server を 1 台利用することができます。なお、パッシブ SQL Server のコア数は、アクティブ サーバーのコア数以下である必要があります。

Business Intelligence によるサーバーへのアクセス

サーバー + CAL ライセンス モデルに基づいて提供される他の SQL Server 製品と同様に、Business Intelligence (BI) エディションでは通常、サーバーにアクセスするユーザーまたはデバイスごとに 1 つの SQL Server CAL が必要となります。SQL Server 2014 以降、BI エディションサーバー ソフトウェアの使用条件では、データを提供するデータソースについて CAL を取得していなくても、データのバッチ処理が可能になっています。



- 「バッチ処理」とは、別々に発生するタスクのグループを、同時に一括処理できるアクティビティと定義されます。
- BI エディション サーバーに対するバッチ処理以外のアクセスについては、引き続き、サーバー ソフトウェアにアクセスするユーザーおよびデバイスに CAL を割り当てる必要があります。
- サーバー + CAL モデルに基づいてライセンスを取得した SQL Server Standard および Enterprise エディション ソフトウェアには、引き続き一般的なマルチプレキシング ポリシーが適用されます。